



2006年7月25日

発行人：平 良
編集：入試広報課
発行所：学校法人クラーク学園
〒229-8522
神奈川県相模原市青葉2-2-1
電話 042(754)1133

「クラーク学園創立五十周年を迎えて」

理事長 平 良



二〇〇六年五月十三日にクラーク学園創立祝賀会をいたしました。アメリカや韓国からの来賓、地方からの友人、旧知を含めて多数の来賓者をえられたことは大変に幸いなことであります。

私達はこの集まりを教職員全員による祈禱会から始めました。これは現在責を負っている者が学園の精神を確認し、この日を迎えたことの感謝であり、又、世田谷時代の祈禱会を受けついだものでもあります。

又、この学園をここまで育てて来た先輩を思いながら、天国に召された方々の墓参も計画しています。この晴れがまし

い日を迎えたのは現在その責を担っている者だけではなくて多くの先輩の労によるものであることを忘れるわけにはいきません。

現在は一種の「福祉ばやり」になっていますが、私達はもう一度福祉の原点を思い出さなければならぬし、それがキリスト教や多くの宗教の中から生まれて来た奉仕の精神や、仕えることの大切さを教えてくれた先進の志に立ちもどることもできるように思われます。次の世代に伝えられるにふさわしい成果をえられるように努めたいと思っています。

本日、クリスチャン・チルドレンズ・ファンドを代表して、クラーク学園創立50周年をお祝いできることを、大変喜ばしく、また誇りに思います。クラーク学園は、厳しい状況の中で生活する子どもたちを守り、福祉に携わるワーカーの育成において、先駆者の努力を積み重ねて参りました。

1947年、J・カルヒット・クラーク博士は、日本の人々とクリスチャン・チル

クラーク学園50年の歩み

ロジャー・L・グレゴリー
判事、クリスチャン・チルドレンズ・ファンド理事



ドレンズ・ファンド(CCF)の間にこのすばらしい関係を築き、それは今日に至るまで大切に培われて参りました。クラーク博士の名前に因んで命名された学校法人クラーク学園は、「和泉短期大学」の経営母体です。その始まりは、1956年4月、CCFによる支援のもと設立された、福祉施設職員の養成機関であるバット博士記念養成所にあります。同養成所は現任訓練機関として、当時の日本では初の試みでした。養成所の規模と名声は上がり、1965年、本格的福祉従事者養成機関として「クラーク学園和泉短期大学」が創設されました。卒業生は15000人に達し、指導員、児童福祉施設

聖句

「わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。」

ヨハネによる福音書 15章12節

の運営、ソーシャル・ワーカーなどの専門家として活躍なさっています。

クラーク博士とご夫人は和泉短期大学の落成式に出席して参りました。アメリカに戻った博士は、CCF理事会に次のように報告しました。「和泉短期大学は福祉従事者養成機関として新たな試みである。その卒業生は、必要とあれば、CCFが支援する児童福祉施設以外の要望にも応え、家族との愛の絆を失った子どもたちに手を差し伸べることでしよう。」

ご存知のとおり、戦後日本の経済的發展は目覚しく、1974年、CCFは日本での働きを終え、パートナーである基督教児童福祉会(CCWA)にその役割を託しました。当時のCCF会長ヴェレント・J・ミルズ博士は、宮内庁侍従長に次のような手紙を送りました。「過去25年間にわたり、日本の子どもたちに支援の手を差し伸べられたことに喜びを感じ、また日本における児童福祉の継続的發展を拝見し心温まる思いです。実のところ、日本は世界で最もレベルの高い児童福祉を達成していると言えるでしょう。これは賞賛されるべきことです。」

和泉短期大学の創設は、児童福祉の質の向上という点で日本の福祉施設に重要な影響を与え、今後ともそれは継続されることでしょう。従って、私は、学校法人クラーク学園の先駆者の皆さま、理事及び職員の方々に、困難の中で生活することを余儀なくされる子どもたちのために養護、保護、福祉の中核を担うワーカーを養成する並ならぬご尽力とその賜物である偉大な業績に、心よりお祝いを申し上げ、祝辞とさせていただきます。神様の祝福が、クラーク学園の関係者の皆さま、学生、同窓会の皆さま方の上に豊かにありますように。

和泉短期大学

本分を尽くす努力を



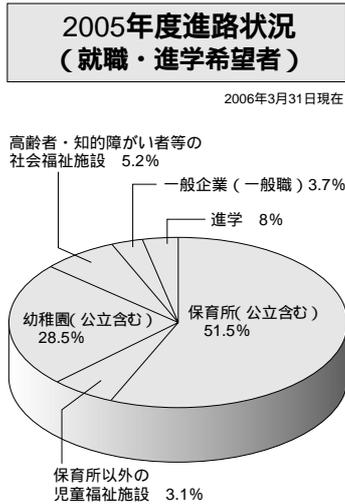
学長 伊藤 忠彦

私が、子どもだらう頃は、よく授業中に先生の話をお聴きしないで、ぼんやりと窓の外を眺めていて叱られたものです。「伊藤！とこ向いているんだ」と怒鳴られることもあれば、チヨク(白墨)が飛んでくることもありました。気がついてみると先生が机のそばまで来ていて「ツツン」とされたこともありまして。こんなことの繰り返しがあって、中学生になつたある日、憧憬を抱いた先生から「よそ見をしないで、先生の話をお聴きなさい、それがきみの本分です」と叱られたのです。その事があって、大したことには思えない状況、どつてもいいだろうと思いたくなる場面でも「本分を守る、本分を尽くすこと」が自分には必要なのだと考えるようになりまして。「本分」とは「人が本来つくさなければならぬこと」で、「その人にとっての本来的義務」(日本国語大辞典)と言つて可い。生徒である私が、先生の話がおもしろいとか分りにくいとか、くだらないとか感じるこ

とがあつても、そのこととは関係なく、私は学ぶ場におかれた者として、よそ見をしないで先生の教えをお聴くのが本来的義務、尽くさなければならぬことなのだと思はれたのです。「本来的」とは「はじめから」「もとも」と言ふ意味です。「義務」をどのように考えるかが鍵です。義務は常に受けている権利、恩恵、報酬に対する対価として守られるべきものです。権利、また恩恵無くして義務無しです。くだらない、わからない授業を真面目に聴く義務がないと言つても理解できません。しかし、本分としての義務は、目先の恩恵に対する対価としての義務だけでなく、生命の、生の原点にまで遡って見ることが求められている義務なのです。「自分」という言葉がどこから来たのか、30年にもわたつて探求してきた福永光司という哲学者が「自分」という言葉が漢語であり、「自分に天から分かち与えられたもの」と言ふ意味だつたことを中国の古い書物を通して知つた喜びを、一九八九年十一月六日の朝日新聞の「自分に出会う」で書いています。本分の「分」もそうであるに違いありません。私たちに、はじめに天から分かち与えられたもの、それに対する義務があると考へられてきたのです。私は今でもそのように思っています。

短期大学進路状況報告

日本人の女性が産む子どもの平均数を示す平成17年の合計特殊出生率が1.25と過去最低を更新したことが厚生労働省が発表した人口動態統計で明らかになった。これまで最低だった平成15年の1.29を0.04下回り、平成12年以降で最大の下げ幅となった。人口減少に歯止めをかけるには合計特殊出生率で2.1程度への回復が必要とされるが、「少産」傾向はまだ続くと見られるなか、保育所の待機児等の諸問題や採用に関する雇用形態の変化、既卒者転職数の増加なども含め、今後就職指導に影響を及ぼすのは必至の状態となっている。しかし本学においては本年3月の卒業生352名のうち、就職・進学希望者で保育・福祉職として288名が就職し各分野でのこれからの活躍が期待される。



役員・教職員永年勤続者表彰
2006年度の永年勤続者の表彰が去る5月13日創立50周年記念式典の際に行われ、平良理事(勤続28年)・眞鍋恵三理事(勤続25年)・布施英雄理事(勤続20年)以下6名の教職員が表彰されました。

あれから30年



教授 図書館長 中村 美津子 (勤続30年)

和泉短大の前には桜並木が広がっています。世田谷校舎の近くにも見事な桜並木がありました。そこを潜つてから30年の時が流れました。鬱蒼とした森が淵野辺公園と宇宙科学研究所 弥栄東・西高校へと変貌する様子を眺めながら、教員養成課程の二度の改訂と保育士養成課程の改訂を経て、この間に10000人の学生さんと学びを続けてきたことを思います。感慨深いものがあります。着任時の自己紹介で「R-21パーの折りの言葉」「神よ、変えることのできるものを変える力を、変えることのできないものは受け入れる勇気を、そして変えることのできるものを変えることのできないものを見極める智慧を与えたまえ」を引用したことを思い出します。そして、その力も勇気も智慧も今もって成長していないことを恥じ入るばかりです。まだまだ精進が足りません。それでも今日まで保育者養成の仕事が続けさせていたただけたのは、先輩・同僚の教職員の方達のお導きと励まし、学生さん達のような保育者になりたいという姿勢、それに卒業生や保育現場の保育者の方達の保育への熱い思い等に支えられていたからです。改めて皆様に感謝申し上げます。

中町時代の思い出



事務局長 佐藤公啓 (勤続30年)

クラーク学園創立50周年の節目の年に、30年永年勤続表彰を受けたことは、生涯忘れ得ぬ思い出となりませう。これも、皆様方に支えられた結果と感謝申し上げます。

私が学園に勤めた1976年は、世田谷中町校舎の時代でした。そのころを知っている教職員は中村教授、村山学生課長だけとなってしまいました。入った頃の和泉は大変な時期で、他の大学関係者から破綻寸前の学校(和泉)によく就職したなと言われたのが印象に残っています。確かにピンチの連続で、事務局も事務の体裁もなしていない状態でした。中町校舎は日本体育大学に売却され、相模原校舎は建設が遅れ、6月には日体大から立ち退きを迫られ、ついに我々は執務する場所がなく、郷司理事長の計らいで国民相互銀行自由が丘支店2階会議室に学園事務局が設けられ、そちらで事務をとっていました。学校に勤めている感じではなく、銀行に仕事に行っているようでした。いま思うとよく今日まで存続し発展した学園になったと痛感しています。学園も3年後には、厳しい状態に陥りますが、これも教職員が一体となり難局に取組めばさらに和泉は、発展出来るかと確信しています。

善きはたらきを与えられて



学生課長 入試広報課長 村山徳淳 (勤続30年)

永年勤続者の表彰が去る5月13日クラーク学園の記念すべき創立50周年記念式典で行われました。平理事長より表彰状および賞金、記念品を賜り30年の歳月の重さを考え改めて身のひき締まる思いでした。私は世田谷時代縁あって働きを与えられました。すでに全学移転は決まっております、まったくの不見の地へ赴くこととなり今回想してみるとやはり現在に至る力光となって来られた諸先輩方の導きにただただ感謝する気持ち一杯です。最初の配属は総務課でしたが以降学生課、企画広報室、図書課、専門学校、管財課等での働きを与えられ微力ながら学園の為努力を重ねて参りました。今、大学は激動の時代を迎え大きな変革を迫られています。18歳人口の減少、2007年度の大学全入時代、高校生のほぼ2人に1人が進学する中、学生の学力低下、公表される第三者評価の結果等、大学がどの様な個性を發揮し、明日の大学改革に取り組みむべきかがまさに試されています。幸い学園には優秀な人材とすばらしい教職員組織があり、明日の大学改革のあり方について必ずや構築出来るものと確信しております。

これまでとこれから



助教授 実習ボランティアセンター長 藤川いづみ (勤続15年)

一九九〇年四月に着任し、途中、一年間の育児休暇を経て、この度、十五年の勤続表彰を頂戴いたしました。クリスチャンとしてキリスト教主義教育を行う和泉短期大学に働き場を与えられ、微力ながらも神様の御用の一端を担わせていただいていることは大きな喜びであり、この十五年間、感謝のうちに日々歩んで参りました。私自身もかつては保育者を志す学生であり、今もその延長線上で学生とともに保育者になるための学びを続けているような感覚を持ち続けています。保育者は私にとって永遠の憧れの職業であり、これからもその憧れを学生と共有しながら、保育者養成に携わってゆきたいと思えます。ただ、この十五年間の私自身の姿を省みたと、キリスト者として、教育者として、研究者として、誇れるものが多くはなく、これからの課題ばかりが残されています。また、私ができることは小さいですが、和泉短大が子どもたちの幸せと地域社会に貢献する学校として良い教育を行いさらに発展していくために、学園の教職員の皆様と共にこれからも歩ませていただきたいと思えます。どうぞよろしくお願いいたします。

15年の時を迎えて



助教授 学生部長 佐藤守男 (勤続15年)

今年クラーク学園は50周年を迎えました。この学園を建てられた神を賛美申し上げます。また、クラーク学園が創立した年に私を含めた4人の教職員が生まれていることは、不思議な御導きと言えるでしょう。私は、和泉短期大学に34歳で勤務し、今年で15年が過ぎました。短いようでもあり、長いようでもあります。勤めた当初、体育館も運動場もない小さな短大でしたが、緑に囲まれたすばらしい環境の中であり、また、学生達も勉学の忙しい中、ボランティア活動をしていました。今ではその卒業生連に施設、保育所、幼稚園等で会うことを楽しみにしています。ところで、私は闘病生活が長かったせいか、「弱者からしか真実は見えない。だから、美術は弱者の歴史でなくてはならない。」と、強く思っています。そして、そのことに裏づけをしてくれたのが、和泉短期大学で触れた福祉でした。私の彫刻と福祉は共通性があり、今思うと、クラーク学園に呼んで頂いたのは、御心だったように思います。この後、いつまでクラーク学園に勤務を許されるかわかりませんが、世の中に少しでも多くの福音をお伝えする器になればと思っています。

十五年ひと昔



学術情報課長 今野和隆 (勤続15年)

他大学図書館職員・塾講師・専門学校教員と、試行錯誤で職を転々とした後、御縁があつて和泉短期大学職員に採用して頂き早くも十五年が経ちました。学生課・教務課・総務課・図書課(現在の学術情報課)の各業務を経験させて頂きましたが、上司や同僚に恵まれ、多大なご迷惑をかけたことも何とか勤続できたことに深く感謝致しております。また情報機器担当という立場から、先生方の研究室や専門学校に時々お邪魔させて頂き、幅広く皆様方と交流できたことも幸せだったと感じております。一方、十五年来コンピューター関連の業務に携わってきたことでの苦労もありました。全字LAN立上げ、コンピューター教室設置、図書館システムの開発など、省コストで高い可用性が求められる計画の策定に、何度も胃が痛くなる思いをしたことを覚えています。より良いシステムを提供したいという一点を励みに何とか頑張れたのだと思います。「秒進分歩」と言われるIT分野ですが、今後も学生・教職員が使い易い学内システムの提供に向け、また研究と教育の要である図書館の環境整備に努めて参りたいと思えます。

和泉福祉専門学校

あなたの隣り人を愛せよ

校長 宮本 和武



本校は、今年開校22年目で、学園創立50周年を迎えた。昨年度、115名の卒業生を世に送り出し、4月に新たに95名を迎え養成教育が進められている。

卒業生は2176名に達した。養成校は増加傾向にあるが、一方では養成校の質が問われている。今年6月、国の指導調査が行われた。養成教育の質を確保するためには、最低基準遵守は当然であるが、建物設備、カリキュラム（授業科目と実習）充実は必要條件である。本校は、建学の精神に基づき、教職員による学生への教育が行われている。人を育てるのは人である。私は、学校は人を大切に、良き働き人を世に送り出す使命があることを再確認させられた。

入学式に新入生に3つの聖書のことばを贈った。第1は、「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。また、自分を愛するようにならねばならない隣り人を愛せよ。」1869年、

ボーデルシヴィンク牧師は、2週間の短期間に自分の子どもを4人失うという悲しい出来事に遭遇し、一軒の農家に障がい児を引き取り共同生活を始めた。それが、ドイツのペテル（神の家）である。職員は利用者を「わがペテルの宝」と呼んでいる。この考えが、第二次世界大戦中、ナチスドイツが障害者を安楽死させる抵抗エネルギーになった。競争社会、能力優先社会に歯止めをかけ、共存社会への転換を可能にした。第2は、「それだけではなく、患難をも喜んでい。なぜなら患難は忍耐を生み出し、忍耐は練達を生み出し、練達は希望を生み出すことを知っているからである。そして、希望は失望に終わることがない。」フランクルの『死と愛』で生死を分けたのは、体の丈夫さではなく、希望の有無であったと告白している。第3は、「私と与える水はその人のうちで泉となり永遠の命に至る水がわきでる。」キリストが与える水は「いのちの水」であり、その人々のうちで枯れることなく溢れ出るものである。介護福祉士として介護を必要とする人々の傍らにいて、希望を失っている人々にいのちの水を与える専門職者としての志を新たに本校での2年間の学びに励まれることを期待する。

新任紹介



専任教員として
佐久間 志保子

専任教員
佐久間 志保子

今年4月より、和泉福祉専門学校に勤務させて頂き、早3ヶ月を過ぎようとしています。以前、和泉福祉専門学校には非常勤講師としてお世話になっていましたので、少しは慣れ親しんでいましたが、学事や日々の授業での専任教員としての重みを感じ戸惑っております。しかし、校長先生始め教職員の方々の暖かい励ましや、指導を頂き感謝しています。また学生から学ぶことも多く、自

新任紹介



はじめまして
佐藤 美紀

専任教員
佐藤 美紀

本年度より和泉福祉専門学校に専任教員として勤務しております。介護福祉士として、また和泉の卒業生として本校に携われることを誇りに思っております。着任当初は歴史ある和泉の教員としてやっていけるかと不安もありましたが、周りの先生方に助けられ、学生に笑顔をもたらしながら毎日充実した教員生活を送っております。

私の教員としてのスタートのきっかけは、介護の現場で

新任紹介



和泉の宝
山本 正司

専任教員
山本 正司

和泉が50周年を迎えた今年4月より和泉福祉専門学校に専任教員として勤務することになりました。新たな出会いに希望を抱き着任し、教員および職員の方々に温かく迎えていただきました。50周年という節目の年、多くの卒業生が福祉施設で活躍されているのを知り、改めて本学園における歴史の重さを知ると共に、和泉が多くの方々によって支えられていることを肌で感じまし

分の振り返りになっています。

私は今まで培ってきました実践での経験を通して、学生に介護の喜びを伝えていきたいと思っています。そして、学生一人一人が自分の介護観を持てるように取り組んでいきたいと思っています。どうぞ宜しくお願いいたします。

略歴

秋田赤十字高等看護学校卒業後、病院勤務ののち、訪問看護業務、訪問介護に関する研究に携わる。その間和泉福祉専門学校で5年間非常勤講師、また介護支援専門として相模原市内で勤務。社会福祉士取得後、福祉サービスマネジメント第三者評価委員の研修や成年後見活動中。
2004年大正大学大学院人間学部社会福祉学科修士課程修了。

の経験を学生に伝えたいという思いと、そこで感じたこれからの介護の現場には、高齢者の生活や人生を支えるための一人でも多くの質の高い介護者が必要だ。という強い思いにあります。私自身、まだまだ微力ではありますが、質の高い介護者の育成を目指して、日々勉強と笑顔で学生達と向かい合っていきたいと思っています。どうぞよろしくお願い致します。

略歴

1997年3月 玉川学園文芸学部教育学科卒業
1999年3月 和泉福祉専門学校卒業
1999年4月、2003年9月 神奈川県内の特別養護老人ホームのケアワーカーとして勤務
2004年4月 和泉福祉専門学校非常勤教員として勤務
関東学院大学大学院文学研究科社会学専攻在学中

た。まさに和泉の宝は、教職員および多くの卒業生をはじめとした、人であると思います。諸先輩の苦勞に感謝の気持ちを忘れることなく、真摯に学生との対話や日々の学びを通して、学生と共に自分自身も成長したく思っています。どうぞ宜しくお願いします。

略歴

1989年3月東洋大学社会学部社会福祉専攻卒業
1989年4月に横浜市役所入庁、同市福祉局保護課、福祉児童相談所等に2006年2月まで勤務
2004年3月東洋大学大学院社会学研究科福祉社会学システム専攻修士課程修了。専門分野は、社会保障論および公的扶助論

二〇〇五年度 短期大学教員研究業績

武石宣子教授

「論文集」
・単著 「芸術的表現から見たリトミック教育」
和泉短期大学研究紀要第26号 二〇〇六年三月

「学会発表等」
・単独 「音楽的素材と身体表現 指導プロセスを中心に」
大泉音楽教育学会第21回大会(札幌大会) 二〇〇五年九月

中島弘光教授

「芸術活動」
ハンドベル関東大会(リソリンリンガース)
共同 日本ハンドベル連盟 二〇〇五年四月

共同 小田原教会チャペル・コンサート
小田原教会 二〇〇五年六月

単独 和泉短期大学チャペル・コンサート
和泉短期大学クラークホール 二〇〇五年七月

共同 和泉短期大学トリイ点検三・コンサート(学生運動歌)
和泉短期大学クラークホール 二〇〇五年十一月

共同 原町田教会チャペル・コンサート(リソリン
リンガース・コロエクレシアス)
原町田教会 二〇〇五年十二月

共同 南足柄市クラシック連盟「ユーイヤー」コンサート
南足柄市文化会館大ホール 二〇〇六年一月

共同 相模原市民会館英・女声合唱「トコナシ」
相模原南市民ホール 二〇〇六年三月

中村美津子教授

「論文集」
・共著 「効果的な保育実習に関する研究 保育実習
のミニマムスタンダード」 二〇〇五年九月
全国保育士養成協議会

原田康子教授

「学会発表等」
・単独 「保育者養成における、『生命科学』の授業展
開と教育効果」
日本保育学会第58回大会発表論文集 二〇〇五年五月

共同 「地域ネットワークの要としての地域子育てセーの取
り組み」 町田市南子育てセンターの実践」
日本保育学会第58回大会発表論文集 二〇〇五年五月

単独 「保育者養成における生物学の役割」
北天生物の会東京 会誌第12号 二〇〇六年一月発行

桜井奈津子助教授

「著書」
・共著 「第6章 児童養護サービス(改訂) 保育士を
めざす人の児童福祉」 みらい 二〇〇五年四月

共同 「第8章 里親の現状と活用(改訂) 保育士を
めざす人の養護原理」 みらい 二〇〇五年四月

共同 「第3章 子どもの養育にあたっての課題(里
親入門)」 ミネルヴァ書房 二〇〇五年六月

佐藤守男助教授

「著書」
・共著 「現代日本の彫刻vol.1 過去から未来 そして現在」
株式会社ARTBOXインターナショナル 二〇〇五年五月

「論文集」
・共著 「塑像における彫刻(第2報) 脱活乾漆技法」
和泉短期大学研究紀要 二〇〇六年三月

「芸術活動」
・新世紀の顔・貌・ス・O・O 30人の自画像 2005
(平塚画廊・平塚) 2005年4月8日、4月17日

共同 (高輪画廊・銀座) 2005年2月19日、2月27日
(名鉄百貨店本店ギャラリー・名古屋) 2005年6月15日、6月21日

「第79回国展」(東京都美術館・上野) 2005年4月23日、5月7日
「グループ展」第2回展 現代具象彫刻の「風景」
(ギャラリーせいほう・銀座) 2005年8月29日、9月10日

「第29回キリスト教美術展」(銀座教芸) 2005年6月28日、7月10日
「REAR END EXHIBITION of MINI-SULPHURS」
(ギャラリーせいほう・銀座) 2005年12月7日、12月24日

「彫刻小品展VII」(ギャラリー惣・銀座) 2005年8月2日、8月11日
「アーバンネットCSビル」・名古屋 2005年3月28日、2008年3月27日

鈴木敏彦助教授

「著書」
・共著 「住居支援ガイドブック「日本の「住まい」と
関連施策の変遷」社会福祉施策と「住まい」と
三輪書店 二〇〇五年七月

藤川いづみ助教授

「論文集」
・単著 「全米幼児教育協会の倫理規定に関する研究(1)
倫理規定策定のプロセスを中心に」
和泉短期大学研究紀要第26号 二〇〇六年三月

「学会発表等」
・単独 「教育基本法の教育理念と保育、人格の完成を中心に」
日本保育学会第58回大会 二〇〇五年五月

伊藤美佳専任講師

「著書」
・共著 「保育の考え方と実践 その基本を学ぶ」

久美出版 二〇〇五年四月

共同 「保育内容総論」 大学図書出版 二〇〇五年五月

共同 「ちと読みたいおはなし(絵本100)別冊太陽」 平凡社 二〇〇五年十一月

「学会発表等」
・単独 「月刊絵本「子どものとも」 1996年2月号、1997年
9月号」に於ける性別役割分業観(2)
絵本学会第8回大会(京都造形芸術大学) 二〇〇五年六月

単独 「月刊絵本「子どものとも」に於ける性別役割分業
観 1967年10月号、1975年5月号」
日本乳幼児教育学会第15回大会(京都文教短期大学) 二〇〇五年十一月

矢野由佳子専任講師

「論文集」
・単著 「保育における臨床心理学的支援の効果に関する基礎研究」
(平成15年17年度文部科学省科学研究費補助金若手研究
(C) 研究成果報告書) 二〇〇六年三月

「学会発表等」
・共同 「保育における心理臨床研修の実践(3)」
「保育における心理臨床研修の実践(4)」
日本心理学会第68回大会(慶応義塾大学) 二〇〇五年九月

横川剛毅専任講師

「著書」
・共著 「いちばんはじめの社会福祉」 樹村房 二〇〇六年四月

「論文集」
・単著 「市民活動団体支援制度研究」
障害関係団体への効果と啓発への有用性
和泉短期大学研究紀要第26号 二〇〇六年三月

二〇〇五年度 専門学校教員研究業績

宮本和武校長

「著書」
・共著 「O&A 里親養育を知るための基礎知識」
明石書店 二〇〇五年八月

下西潤子専任教員

「著書」
・共著 「リーディングス介護福祉学 介護技術 9章
医療看護対応時の介護」 建邦社 二〇〇五年六月

「論文集」
・共著 「第18回介護福祉士模擬試験1「介護福祉士
国試対策」形態別介護技術問題及び解説」
福祉教育カレッジ 二〇〇五年六月

「学会発表等」
・共同 「ALS患者に対するキネズティックの有効性」
第10回日本難病看護学会 二〇〇五年九月
北里大学看護研究会 二〇〇五年十一月

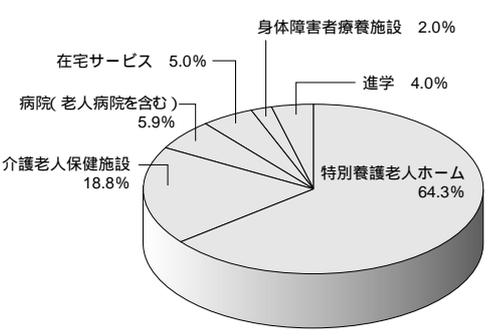
専門学校進路状況報告

就職活動は秋頃から本格的になり、求人も毎年増加し、学生には恵まれた状況が続いています。既存の特別養護老人ホームで増床したり、また新しい施設を作ったりと確実に求人が増えていきます。専門学校に求人が増えた理由には次の2つの点が考えられます。一つには施設が介護保険制度以降、より質の高い有資格者を求めるようになった点、もう一つは中途採用よりも専門学校を卒業したばかりの学生を採用し育てようとするようになった点です。

2005年度の卒業生は115名でした。内訳は109名が就職、4名が福祉系大学等に進学しました。今年度も例年と同じ傾向で、就職先の割合は特別養護老人ホーム64%、介護老人保健施設19%、病院6%、在宅サービス5%、障害者施設2%となつています。ほぼ全員が介護福祉士の資格を活かした就職先を決定しています。

2005年度進路決定先

2006年3月31日現在



新任紹介(短期大学)



頑張ります！

専任講師

塩谷 香

本年4月より専任講師として着任いたしました塩谷と申します。この3月まで現場にありましたので、年は取っていても教員としては1年生です。教科書には載っていない現場でのノウハウはたくさんありますが、学生には厳しい話になることも多々あります。しかし保育者に要求されるものが年々膨大になっている昨今、現場では優秀な保育者を渴望しています。微力ではありますが、現状を冷静に判断し柔軟に考えることのできる保育者を養成することに力を尽くしたいと考えております。どうぞよろしくお願いたします。

略歴
 大学卒業後、品川区入区、区内保育園で保育士として20年間勤務
 1998年区立旗の台保育園園長
 2002年品川区初の公立での幼児一体化施設「葉すこやか園」の立ち上げから保育園の運営責任者としてかかわる
 2003年聖徳大学通信制大学院児童学専攻修了

新任紹介(短期大学)



はじめまして

専任講師

平田 美智子

私は中学から大学まで女子校に通ったため、共学への慣れを持っていました。二十代半ばにアメリカの大学に留学することで、共学で学ぶ夢を果たせました。アメリカでは女性もキャリアを持ち、一度家庭に入っても、例えばソーシャルワーカーであるという職業的アイデンティティは失わずに持ち続けていました。

その頃、漠然と自分の人生設計を立て、二十代は勉強、三十代は家庭を持って子育て、四十代は仕事を中心に行いたいと思っていました。まだ若かったので、五十代以降は見当が付きませんでした。今、五十代になって、和泉短期大学で教鞭をとる機会を与えられ、なるほどこのような選択肢もあったのか、と自分なりに納得しています。今までの経験を生かし、本学で教え、研究することができました。どうぞよろしくお願いたします。

略歴
 一九七五年 日本女子大学文学部卒業
 一九七五年、七八年 都内の私立高校で教諭
 一九八一年 ワシントン大学社会学部修士課程修了
 一九八二年、二〇〇〇年 社会福祉法人日本国際社会事業団ソーシャルワーカー
 二〇〇二年、二〇〇四年 神奈川県母子相談員
 二〇〇四年、二〇〇六年 東京都養育家庭専門員

2006年度予算書の概要

学校法人会計基準に基づく予算には、資金収支予算書と消費収支予算書とがあります。

資金収支予算書の資金収入の部合計は、2,758,543千円で、資金支出合計1,140,430千円との差額である1,618,113千円が次年度への繰越支払資金(現預金)になります。前年度繰越支払資金より85,572千円の減少の見込みです。

消費収支計算書の帰属収入合計は1,035,462千円です。基本金組入額は、19,848千円で消費収入合計は1,015,614千円です。これに対して消費支出は、982,492千円となり、33,122千円の収入超過となります。

2005年度決算の概要

2005年度決算が5月27日(土)開催の評議員会ならびに理事会で承認されました。

その概要を説明いたします。学校法人会計の計算書類は、経営状態を表す「消費収支計算書」、資金繰りの状態を表す「資金収支計算書」、財政状態を表す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4条に定められた規則に基づき作成しています。

資金収支計算書は、2005年度中の全ての資金の流れを表示した計算書です。資金収入の総額は2,876,390千円となりました。これに対し、支出した資金の総額は、1,172,705千円となり、2006年度に繰り越される支払資金(現預金)は、2004年度に比べて57,971千円減少し、1,703,685千円となりました。

消費収支計算書は、当該年度の収入及び支出の均衡状

態を表すことを目的にしています。収入の部では、2006年の学園創立50周年を迎えるため、記念事業募金をした結果、理事、評議員、教職員、卒業生、在学生、協力会社等から8,442千円の特別寄付金を得ることができたことにより、収入合計は1,149,040千円となりました。帰属収入の約90%を学納金に依存しているため、学生数の減少は、本学園の運営に甚大な影響を及ぼすこととなります。帰属収入は、学校法人の純資産を増加させる収入です。この帰属収入から第1号基本金である学校法人を継続的に保持していくための2005年度取得の固定資産(建物、構築物、備品等)第3号基本金である奨学基金との合計29,183千円を控除した消費収入の部合計は、1,119,857千円です。一方、支出面では支出の大半を占める人件費は、527,757千円で人件費比率は約46%です。教育研究経費は、322,273千円です。教育研究活動に要する経費全般について効率的な支出に努めました。管理経費は、95,849千円です。法人業務及び管理部門の維持管理運営費の効率的、効果的支出を図り、経費削減に努めた結果です。消費収入の部合計は、1,119,857千円、消費支出の部合計は、946,843千円です。その結果、収支差額は、173,014千円が消費収入超過となりました。

貸借対照表は、2005年度末における当法人の資産、負債、基本金等の状態を示すものです。なお減価償却費の対象資産(建物、構築物、機器備品等)については取得価額から減価償却累計額等を控除した金額で表しています。資産の総額は7,800,417千円です。2004年度に比べ182,322千円増加しました。負債の総額559,956千円を控除した純資産は7,240,461千円で2004年度より202,197千円増加しました。

資金収支計算書(概要)

収入の部

(単位:千円)

科目	2005年度 決算額	2006年度 予算額
学生生徒等納付金収入	1,035,613	940,100
手数料収入	15,890	15,150
寄付金収入	8,492	10,000
補助金収入	49,561	38,200
資産運用収入	4,305	6,000
事業収入	3,409	3,600
雑収入	31,770	22,412
前受金収入	315,230	311,125
その他の収入	16,137	42,853
資金収入調整勘定	365,673	334,582
前年度繰越支払資金	1,761,656	1,703,685
資金収入合計	2,876,390	2,758,543

支出の部

(単位:千円)

科目	2005年度 決算額	2006年度 予算額
人件費支出	528,721	533,520
教育研究経費支出	218,715	200,689
管理経費支出	82,402	106,341
施設関係支出	27,112	43,263
設備関係支出	17,292	10,675
資産運用支出	287,089	202,005
その他の支出	16,165	18,795
[予備費]		30,000
資金支出調整勘定	4,791	4,858
次年度繰越支払資金	1,703,685	1,618,113
資金支出合計	2,876,390	2,758,543

消費収支計算書(概要)

消費収入の部

(単位:千円)

科目	2005年度 決算額	2006年度 予算額
学生生徒等納付金	1,035,613	940,100
手数料	15,890	15,150
寄付金	8,492	10,000
補助金	49,561	38,200
資産運用収入	4,305	6,000
事業収入	3,409	3,600
雑収入	31,770	22,412
帰属収入合計	1,149,040	1,035,462
基本金組入額合計	29,183	19,848
消費収入の部合計	1,119,857	1,015,614

消費支出の部

(単位:千円)

科目	2005年度 決算額	2006年度 予算額
人件費	527,757	527,825
教育研究経費	322,273	304,417
(減価償却額)	(103,558)	(103,728)
管理経費	95,849	120,250
(減価償却額)	(13,447)	(13,909)
資産処分差額	964	0
[予備費]		30,000
消費支出の部合計	946,843	982,492
当年度消費収入超過額	173,014	33,122
前年度消費収入超過額	1,281,289	1,454,303
翌年度消費収入超過額	1,454,303	1,487,425

2005年度貸借対照表(概要) 2006年3月31日

資産の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	6,065,812	5,855,002	210,810
有形固定資産	3,753,925	3,829,249	75,324
土地	1,993,696	1,993,696	0
建物	1,508,306	1,567,788	59,482
構築物	77,517	85,271	7,754
教育研究用機器備品	87,050	95,412	8,362
その他の機器備品	7,140	5,216	1,924
図書	80,216	79,556	660
車両	0	2,310	2,310
その他の固定資産	2,311,887	2,025,753	286,134
借地権	1,850	0	1,850
電話加入権	690	690	0
施設利用権	1,261	1,351	90
有価証券	20,000	21,000	1,000
奨学貸付金	2,005	3,720	1,715
出資	2,808	2,807	1
定期預金	1,000	0	1,000
減価償却引当特定資産	1,849,138	1,764,097	85,041
退職給与引当特定資産	229,112	228,066	1,046
施設拡充引当特定資産	200,000	0	200,000
第3号基本金引当資産	4,023	4,022	1
流動資産	1,734,605	1,763,093	28,488
現金預金	1,703,685	1,761,656	57,971
未収入金	30,253	810	29,443
前払金	667	621	46
立替金	0	6	6
資産の部合計	7,800,417	7,618,095	182,322

負債の部

(単位:千円)

科目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	228,130	229,093	963
退職給与引当金	228,130	229,093	963
流動負債	331,826	350,738	18,912
未払金	4,170	4,238	68
前受金	315,230	335,420	20,190
預り金	12,426	11,080	1,346
負債の部合計	559,956	579,831	19,875

基本金の部

科目	本年度末	前年度末	増減
第1号基本金	5,709,135	5,679,953	29,182
第2号基本金	0	0	0
第3号基本金	4,023	4,022	1
第4号基本金	73,000	73,000	0
基本金の部合計	5,786,158	5,756,975	29,183

消費収支差額の部

科目	本年度末	前年度末	増減
翌年度繰越消費収入超過額	1,454,303	1,281,289	173,014
消費収支差額の部合計	1,454,303	1,281,289	173,014
負債の部、基本金の部	7,800,417	7,618,095	182,322
消費収支差額の部合計			

財政の見通しについて

少子化による18歳人口の減少、4年制大学等の保育士養成校の増加、主務官庁による入学定員の遵守指導等、短期大学を取り巻く環境は年々厳しさを増して、私立大学の3割、短期大学の約4割が定員未充足の状態により、消費支出が帰属収入を上回る状況です。本学園でも今後、大幅な収入増を見込むことが困難な中で、教育研究活動の維持向上と全般的な支出の削減とのバランスを保ち、一層の財政基盤の強化を図っていかなくてはなりません。

2006年度は、施設設備の整備として研究棟敷地(677m²)の取得、図書館空調設備の取替更新、和泉クラーク・ホールのシール工事、学園創立50周年記念式典関係経費、50周年記念事業として和泉クラーク・ホールにスタンドグラス(2枚)の設置を行い、次年度以降(2007年度から2010年度まで)も1年に2枚ずつスタンドグラスを設置していくことになっています。また地域貢献として子育てサロン「はっぴい」の開設を行ないます。

入学定員遵守という厳しい規制の中で、学園の環境整備充実のために将来にわたり支出要因は多く、さらなる飛躍を目指して、今後は業務改善し、教職員一人ひとりがコスト意識を持ち、一層の合理的・効率的な支出に努め資金の有効活用をしていきます。学校教育法の改正により、財務情報公開の義務化や短大基準協会による認証評価を2007年度に控え、USR(大学の社会的責任)を果たしつつ、本学園に求められている社会的使命を全うし、高等教育機関の理念である教育・研究・社会貢献を行い、キリスト教の精神に立った、充実した教育と健全な運営に取り組みたいと存じます。

学校法人クラーク学園 創立50周年記念事業募金報告

寄付者ご芳名 (順不同・敬称省略)

専任教員

久富 陽子
矢野由佳子
川上美智留
曾根真理子
田中 孝一

【短大】非常勤講師

朝比奈 稔
横山 正子

非常勤職員

原口 恵
元職員

宮本 綾子

【短大】卒業生

会田 弘子
伊東 由佳
白井智恵子
小栗みどり
小原美保子
小原 裕子
小林 篤子
齋田八重子
佐藤 博子
島崎 晶子
新藤 麻子
高澤 和子
田島恵津子
土橋 葉子
中島 礼子
中山 明美
廣瀬 ちあき
深澤 秀子
福本あや子

松田 和敏

峯田みどり
山本 祥子

【短大】在学生

我妻 秀雄
安藤 保子
井草早央里

市野 孝治

井出 浩幸
岩本 直幸

薄葉 新一

大久保武文
大田 武彦

小沼 正治

金子 忠男

河本 裕太
北村 健治

串田 邦夫

小泉 正洋
小平 晶二

今野 修司

今野 正徳
雑賀みのり

佐々木美香

佐藤 信義
篠崎 正亘

島津 和世

島村 政巳
清水 文男

霧垣 久夫

杉山 順子
高瀬 早織

谷口 弘之

塚本 修

土志田元和

永井 宏
長澤 浩一

中山 均

生井 正幸
西澤 廣美

根津 剛

林田 美央
平山 広志

深浦 則子

丸山 正浩
元重 博志

山本かおり

吉田 春雄
吉田 雅美

吉本 文明

米本 勝之
和智久美子

【専門】卒業生

川瀬 悦子

【専門】在学生

今関 正道

岩田 明彦
大川 良一

岡本 正

押上江里奈
木下 信行

児玉 淳一
佐々木 哲也

佐々木 誠
清水 明

鈴木 孝重
関戸 博

萩生田佳法

村本 弘美

父母
松田 宜子

企業

厚木ヤクルト販売株式会社
株式会社ア・ドマニー

株式会社アプト

株式会社井上農園
有限会社エフエムシー

株式会社小笠原

神奈川中央交通株式会社
神奈川三菱ふそう株式会社

株式会社教育弘報研究所

株式会社ケイエムアドシステム
コカ・コーラセントラルジャパン株式会社

小清水電気管理事務所

相模設備工業株式会社
三冬社

株式会社推名政夫建築設計事務所

株式会社ジャパンビバレッジ

株式会社松栄楽器店

株式会社昭栄広報
有限会社青史堂印刷

総合教育サービス株式会社
医療法人社団相和会産業検診事業部

第一工業株式会社横浜支店

株式会社ダイキンプライドシステムズ
多摩スポーツ施設株式会社

株式会社たまたや文具店

株式会社東海ビルメンテナンス
東京海上日動火災保険株式会社相模原支社

東京キリンビバレッジサービス株式会社相模原
東京総合写真株式会社

東上ガス株式会社

戸田建設株式会社横浜支店

トップツアー株式会社
株式会社なかじま外商センター

株式会社成川電興

株式会社日本ドリコム
株式会社ニューアド社

株式会社野崎工業所

野村證券株式会社
富士テレコム株式会社

株式会社プログ

株式会社芳文社
三菱東京UFJ銀行

三菱UFJ信託銀行株式会社町田支店

株式会社ユアテック
由木尾総合保険

株式会社リエー

株式会社梁プランニング
その他

相模原教会 婦人会・ヘルモン会

相模原リトルシニア野球協会
和泉短期大学同窓会清流

合計人数：431 件

合計金額：25,305,311 円

この度は、クラーク学園創立50周年記念事業募金の趣旨にご賛同賜り、多大のご寄付をいただきましたこと誠にありがとうございます。
2006年4月15日から、6月30日までにご寄付いただきました方につきまして、感謝をもってご報告いたします。
なお、当局が受理しました日付で処理いたしておりますので、多少のずれが生じている方もありますが、何卒ご了承をお願いいたします。

理事長 平 良

クラーク学園 創立50周年を祝して



上:クリスチャン・チルドレンズ・ファンド (CCF:Christian Children's Fund)

下:韓国福祉財団 (KWF:Korea Welfare Foundation) から贈呈された記念の盾。

人 事

法人

就任
評議員(任期2年)(06.6.1) は新任

石田 周介・大串紀代子

小山田小八郎・木村 治男

小林 亨・佐藤 蘭美

芝 敬一・出村由利子

土橋 正文・豊福 義彦

中島 弘光・中島 漢子

新美 臣江・原田 康子

細谷 政幸・松田 壯吾

眞鍋 恵三・森山みね子

山田ひろみ・横山英美子

伊藤 忠彦(拠職上)

宮本 和武(拠職上)

佐藤 公啓(拠職上)

顧問(06.6.1)

大谷 嘉朗

評議員退任(06.5.31)

大谷 嘉朗・奥沢 行雄

齋藤 行子・西村美智子

短期大学

探用(06.4.1)

塩谷 香 専任講師

平田美智子 専任講師

昇 任(06.4.1)

平塚 豊 総務課長

三好 順平 学生課主任

吳 動(06.4.1)

曾根真理子 入試広報課主任

島崎 千春 実務(06.3.31)

退 職(06.3.31)

山内 常博・小倉 常明

専門学校

探用(06.4.1)

佐藤 美紀 専任教員

佐久間志保子 専任教員

山本 正司 専任教員

宮下富士子 専任教員(再雇用)

雇用期間(06.4.1) 06.9.30

就任(06.4.1)

出村由利子 教務主任

任期(06.4.1) 08.3.31

退 職(06.3.31)

宮下富士子・杉山 佳子

下西 潤子

表 彰

全国保育士養成協議会 平成17年度教職員表彰者

伊藤 忠彦 学長

計 報

故 土屋 千恵子氏 (短期大学総務課 鈴木あや氏 御祖母 05.8.11)

故 横川 関次郎氏 (短期大学専任講師 横川剛毅氏 御祖父 05.12.4)

故 鈴木 智恵子氏 (短期大学学術情報課非常勤職員 06.1.13)

故 嵩井 恒夫氏 (短期大学元管理人 06.3.8)

故 鈴木 貞夫氏 (短期大学総務課課長 平塚豊氏 御岳父 06.4.29)

故 久永 義弘氏 (短期大学教務課非常勤職員 小澤由美子氏 御尊父 06.6.16)